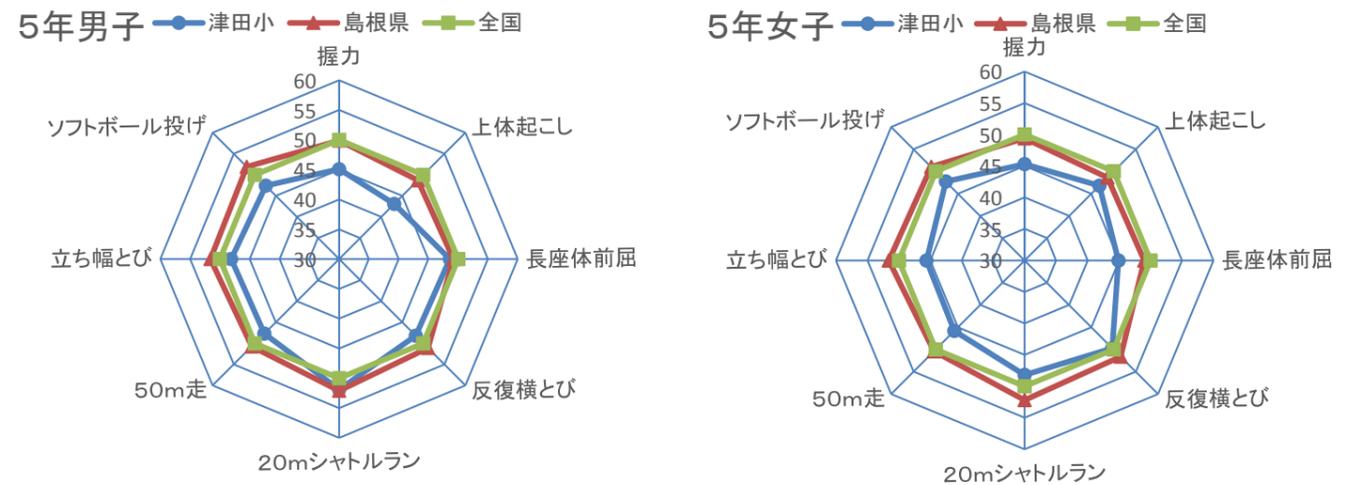


(1)児童の体力の現状

- 小5男子では、20mシャトルランで全国平均を上回る。
- 男子では2年以上のすべての学年が20mシャトルランで、6年が反復横跳び、50m走で松江市平均を上回る。
- 女子では1年が反復横跳び、50m走、立ち幅跳びで、4年が反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び、ボール投げで松江市平均を上回る。
- 小5では男子の20mシャトルラン以外の種目で全国平均を下回る。
- 小5女子では、すべての種目で全国平均を下回る。
- 小6女子では、すべての種目で松江市平均を下回る。
- 男子では、握力、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、ボール投げで松江市平均を下回る。
- 女子では、握力、上体起こし、長座体前屈で松江市平均を下回る。

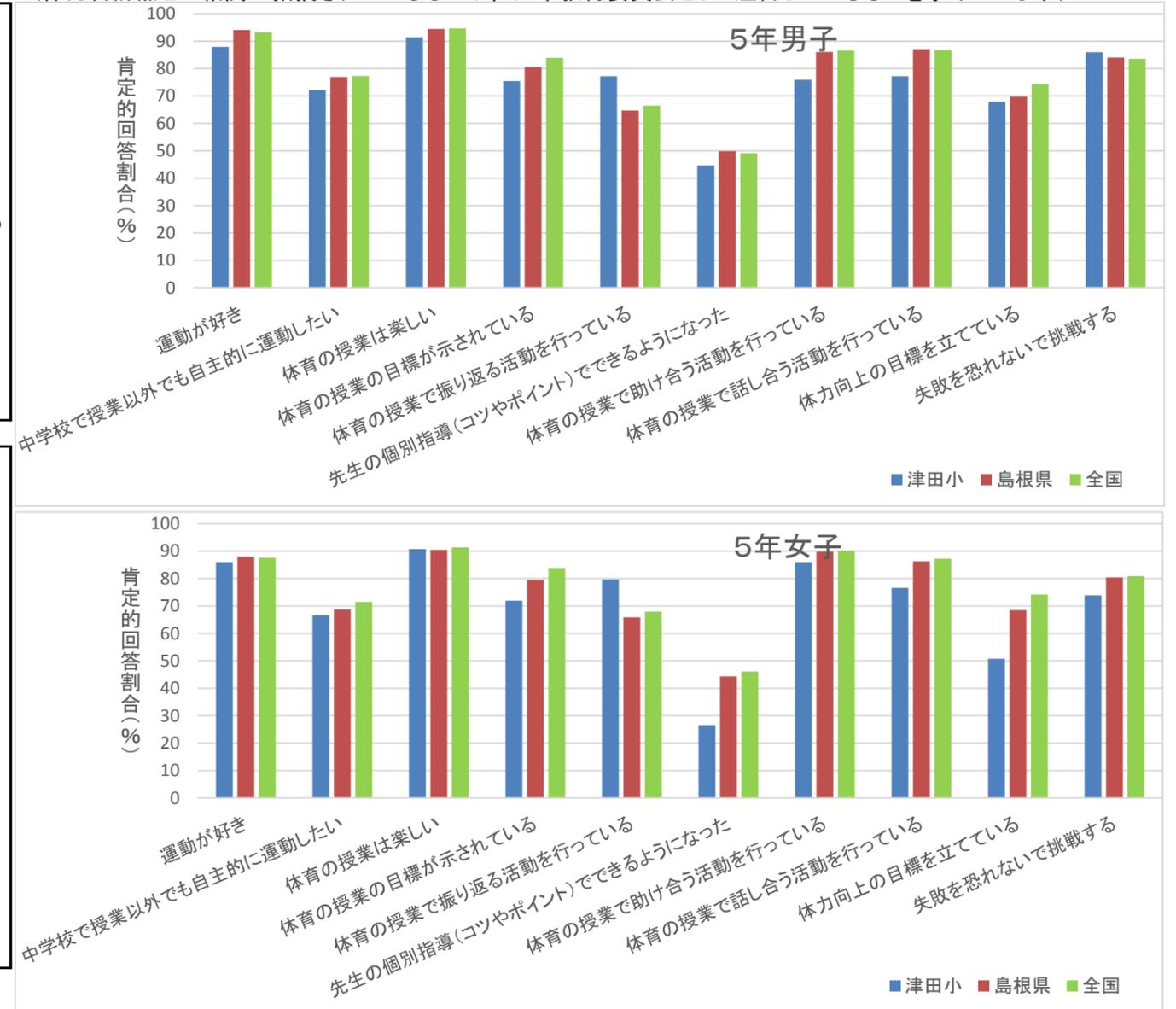
(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

- 意識調査では、「振り返る活動を行っている」の項目で、肯定的回答が全国平均を上回る割合を示している。「振り返る活動を行っている」の項目に関しては、昨年度まで全国平均を下回る割合だったことを考えると、授業改善が行われているものととらえることができる。
- 昨年度の課題を意識した取組が行われたことによって、ソフトボール、20mシャトルランの記録の伸びが大きい学年が多い。
- 小5の総合評価でC段階以上の割合75%以上を目標に取り組んだが、達成することができなかった。(男子56.0%、女子58.2%)
- 全学年で、握力、筋力、柔軟性、走力(50m走)の強化が必要である。
- 意識調査で、「目標が示されている」、「先生の個別指導でできるようになった」、「ICT機器を用いて自分や友だちの動きを撮影して活用する活動を行っている」の項目が全国平均を下回っている。体育の授業改善と指導方法の充実、タブレット等のICT機器の充実と活用が必要である。

(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 - ・総合評価でC段階以上の割合を70%以上にする。
 - ・運動量を確保しながら、よりよい動きができるように、視点を与え、友達同士で教え合う授業を継続して行う。
 - ・授業の前半のW-upの活動の充実を図る。特に、主運動につながる動きを取り入れた活動を積極的に行う。
 - ・握力、筋力、柔軟性、走力で低中高の具体的な達成目標を設定して取り組む。
- ②地域や家庭との連携による取組
 - ・自己の体力結果や生活習慣を意識化できる取り組みを継続する。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 - ・生活習慣の確立、食育が推進されるように、学校から積極的に情報発信していく。

調査実施者数(人) 1年(男子57・女子69) 2年(男子61・女子56) 3年(男子60・女子66)
4年(男子50・女子49) 5年(男子53・女子60) 6年(男子49・女子39)